

## 6 第5学年の取り組み

### (1) 算数チャレンジの取り組み

| 時 期                         | 内 容   |
|-----------------------------|---|
| 1 学期初め頃<br>(算数のオリエンテーションの時) | <ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジの目的と方法を伝える。</li> <li>前学年での算数チャレンジを児童と教師で共有する。</li> <li>宿題として算数チャレンジに取り組みさせる。</li> </ul>   |
| 1 学期の中頃以降                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に書きこみをしている児童、算数ノートに書いて予習をしている児童を全体で共有する。</li> </ul>   |
| 2 学期の初め頃                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジの目的と方法を再確認する。</li> </ul>  |
| 2 学期の中頃以降                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジを前提とした授業を展開する。</li> <li>4 5分の中で児童が表現活動に取り組む時間を十分に確保する。(図、式、言葉で自分の考えを表現し、その考えを友達と交流する時間を設ける。)</li> <li>習熟の時間にミニ先生、タブレットドリル、算数チャレンジなど選択できるようにする。</li> </ul> |
| 1、2 学期を通して                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジに取り組んでいる児童の教科書やノートを紹介し、算数チャレンジの価値を共有する。</li> </ul>  |

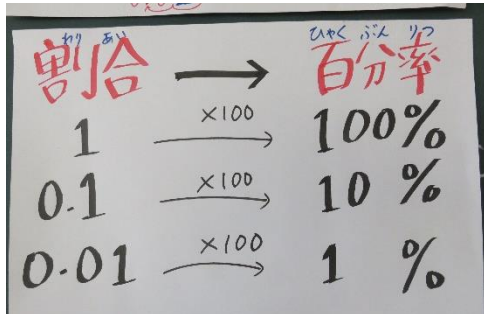
### (2) 算数チャレンジ・数学的表現活動の工夫に取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

- ◎算数チャレンジに取り組んだことで、見通しをもって安心して学習に臨むことができた。算数チャレンジで分からなかったところについて授業が始まる前にどういうことか話し合う姿が見られた。
- ◎授業の進度を速めることで習熟に時間を取ることができた。習熟後は、次の時間の算数チャレンジを学校で行うことが習慣化されてきた。算数に対して苦手意識のある児童は、算数チャレンジを友達と行うことで次の時間に学習する内容がある程度分かった状態で学習に臨むことができるようになってきた。「授業の内容はよく分かりますか。」という12月の算数アンケートの結果にも、「よく分かる」と答えた児童が60%、「大体分かる」と答えた児童が32%であった。この結果から、約90%の児童が算数チャレンジを行うことで、授業の内容が理解できるようになったことが分かる。
- ◎内容の理解度や友達との交流の時間が増したことで、自分の考えを図、式、言葉で表現できるようになってきた。4月当初に、分からない時は最初から友達タイムを設けていい旨を伝えたことで安心して学習に臨んでいた。自然と友達タイムが発生し、学びに向かう姿があった。
- 宿題にすることで80%～90%の児童は取り組んでいたが、自分から算数チャレンジに取り組む児童の数は少なかった。算数チャレンジの良さを味わっている児童を増やすための手立てをもう少し考えなければいけなかった。例えば、授業の残りの時間で算数チャレンジに取り組みせたり、算数チャレンジに取り組んだ感想を発表させたりするなど、いろいろな形でアプローチする必要があった。今後は、他の教員にも聞いて様々なアプローチを心掛けたい。
- なかなか取り組めない児童への対応が難しかった。声をかけても、「時間がない」、「一人ではできない」などの理由はあったが、家庭にも協力してもらわないといけないと感じた。通信やリーバ一等でアプローチする必要があった。

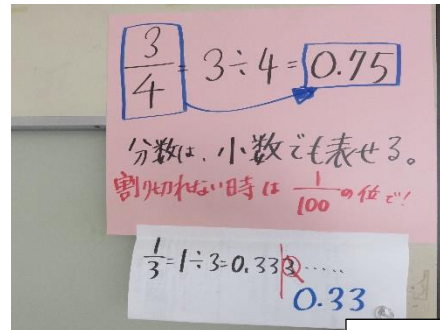
(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【既習事項の掲示物】

思い出せない時のヒントや友達タイムのきっかけにもなるように、授業をしながら掲示物を書き、すぐに掲示をするようにしている。(資料1・資料2)



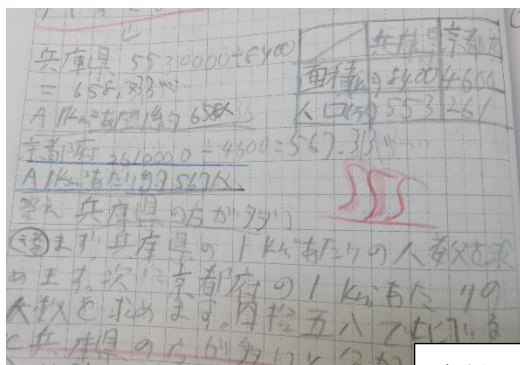
資料1



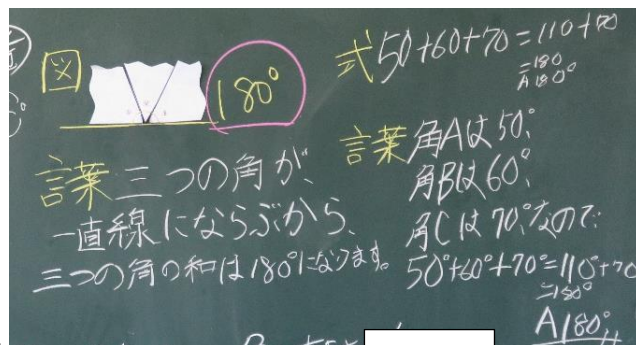
資料2

【算数チャレンジを行ったノート】

図・式・言葉で自分の考えをびっしりと書いている。(資料3) 授業前に理解することで、共有タイムや友達タイムの時に活躍する姿が見られた。黒板を開放することで、数人で話し合いながら図・式・言葉で問題を解く姿が見られた。(資料4) 評価規準を示すことでやる気が増していた。(資料5)



資料3



資料4



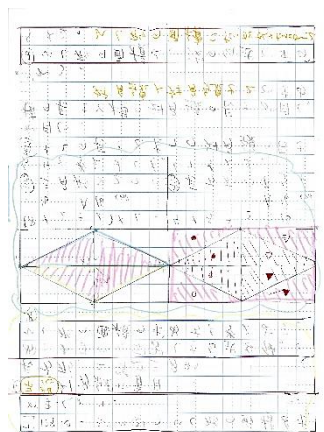
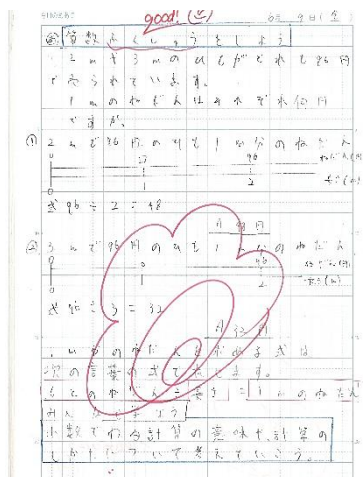
資料5

【授業の復習をした自学ノート】

自分が分からなかったところを家で復習し、再度、同じ問題に取り組んでいた。(資料6)

【友達タイムの様子】

自分の考えを図・式・言葉を使って説明することで理解できるようになってきた。(資料7)



資料6



資料7